



藤屋 侃士  
(下松市幸ヶ丘)

333

ドラマ「黄金の日々」で市川染五郎、栗原小巻、夏目雅子、高橋幸治などに交じって、イエズス会宣教師ルイス・フロイスの役を演じたのがカンガス神父である。ドラマの中で夏目雅子さんに洗礼を授けるなどの大役を果たしたことで有名な神父だ。

13人の仲間  
被災地ボランティア記④

今回、山口ブロック(山口、萩、防府の三教会)が呼びかけた冬季被災地ボランティアの人員は男性五人、女性十人の計十五人。幸か不幸か寒い冬ということもあって応募が少なく、ブロック外の私や広島・祇園教会からの五人を含めて男性四人、女性九人の十三人が参加した。

内訳は神父二人、シスター一人、主婦三人、高・大生三人、幼稚園の先生二人、東京高円寺教会から社会人になったばかりの女性一人、それに私という混成部隊である。最年長は山口教会の

八十六歳のルイス・カンガス神父。イエズス会で、来日して五十五年。四年前にはカンガス神父を団長にカンボジア支援の旅に私も参加したことがある。「パタンバン友の会」という発展途上国を支援する会を設立し、カンボジアだけでなくアフリカのコンゴも支援し、毎年これらの国を訪問するなど、年齢を感じさせない実力あふれる神父だ。覚えていてる人がいるかもしれないが、三十五年前の一九七八年(S53)の戦国時代末期を描いたNHK大河



ベースキャンプ前で現地スタッフ3人と13人の仲間(前列左から2人目が生利さん)



「黄金の日々」でモニカ(夏目雅子)に洗礼を授けるカンガス神父

今回の団長、柴田潔神父もイエズス会。大先輩のカンガス神父を被災者の皆さんに紹介するため「黄金の日々」のビデオテープを持参し、好評だった。四十八歳の柴田神父は大学を卒業し、十二年間、住宅会社の営業マンとして働き、管理職にもなったが「サラリーマンを助ける人生を歩みたい」と退職し、イエズス会に入会。三年前に司祭になったばかりの異色の神父である。

今は、山口教会の仕事と天使幼稚園でも働くために猛勉強中。今回、被災地に向かう新幹線の中でもモンテッリ教育の資格を得るために勉強されていた。

その柴田神父を中心に幼稚園の先生や主婦が五泊六日の被災地の活動内容を検討し「カンガス神父と西日本のかいな仲間たち」という余興軍団を作り、三カ所の仮設住宅訪問と学童保育の手伝いをしたが、どれもかなり

きめ細やかなスケジュールになっていた。それを可能にしたのは、大槌ベース・キャンプで働いている萩教会所属の生利(いまり)望美さんという若い女性のお陰である。彼女は去年一月にボランティアとして大槌を訪れ、余りにひどい災害に衝撃を受け、仕事を辞めて三月からベース・キャンプでボランティアに参加する人たちのために働いているという。



団長の柴田神父